

R4年度継続課題 中間・FS評価(案)一覧

【ソフト分野・中間評価】

(R2採択・2年目)

番号	テーマ	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	研究継続の妥当性評価(意見)	特記事項	R4委託額(万円)	中間評価(案)*
2020-5	3	I	研究名	車道基本の自転車通行環境整備による交通事故特性と新たな道路交通安全改善策に関する研究開発	大阪公立大学 大学院 准教授 吉田 長裕	サイクルシミュレータ等を用いた斬新かつ精緻な手法による分析が進められている。得られた成果を基に、具体的かつ現場実装が可能な自転車交通安全対策がとりまとめられることを期待する。	1. 成果のとりまとめや新たな交通安全対策の提案にあたっては、道路の計画や設計段階にどのように反映させるかを意識して、その概要や特徴の整理にとどまらず、幅員等の諸元・適用条件や設計上の留意点を整理していただくか、もしくは各現場において最適な諸元や適用条件を導出するための検討方法(仮想空間での実験方法)を整理していただきたい。 対策の有効性(定量的な効果等)も整理していただきたい。 2. 2種類の協調型サイクルシミュレータについて、同じ実験対象・実験条件での比較により、特徴や利用条件等の整理ができると、今後シミュレーションの活用を検討する際の参考になると思われる。 3. 国際会議・国際ジャーナル等でさらに積極的な情報発信を進めていただきたい。	1,800	A
			概要	自転車の車道走行と広域化に伴う事故特性を把握し、自動車・自転車のコンフリクトを再現する仮想道路空間実験による科学的知見に基づき、新たな道路交通安全改善策とともに持続可能な安全の段階的向上策を提案する。					

(R3採択・2年目)

番号	テーマ	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	研究継続の妥当性評価(意見)	特記事項	R4委託額(万円)	中間評価(案)*
2021-1	-	IV	研究名	特殊車両の折進可否判定の自動化と特車フリー道路ネットワーク計画手法の研究開発	立命館大学 教授 塩見 康博	特車に関する道路システムのDB構築(テーマ1)、特車通行許可判定の自動化に資する技術開発(テーマ2)、特車の通行に対応した道路ネットワーク計画手法(テーマ3)の各テーマが、成果を統合し実務への適用まで見据えられた上で、順調に進捗している。特車行政の効率化・DXに大いに貢献する最終成果が得られることを期待する	1. テーマ1について、道路情報便覧への市町村管理道路の収録率が低いことから、市町村担当者が確実に入力するよう、業務実態を踏まえ、図示・精度比較等、担当者に扱いやすいDBとしていただきたい。 2. テーマ3について、特車通行のラストマイルで支障になりやすいと考えられる県道・市町村道を、可能な範囲で道路ネットワーク計画手法の検討対象としていただきたい。 3. モデルエリアにおける検討において、各テーマで開発した手法の組合せ検討を効果的に実施し、組合せ方法の提示、到達技術レベルの確認、今後に向けた課題抽出を適切に行っていただきたい。	4,942	A
			概要	衛星画像データ等に基づいて交差点平面図を生成する手法や、特車の折進可否と通行条件判定、走行軌跡生成を自動化する手法を開発すると共に、速達性や頑健性等の指標に基づく特車フリー道路ネットワーク計画手法を構築する。					

番号	テーマ	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	研究継続の妥当性評価（意見）	特記事項	R4委託額 (万円)	中間評価 (案)※				
2021-2	-	IV	<table border="1"> <tr> <td>研究名</td> <td>カメラ画像および複数の観測データを融合した次世代交通計測手法に関する研究開発</td> </tr> <tr> <td>概要</td> <td>道路ネットワーク上の常時観測データを取得可能とする次世代型交通計測システムの構築を目指し、AI 解析、カメラ画像を活用した交通移動体の高精度検知手法、複数の交通データを融合した交通量等計測データ生成・補正手法の開発に取り組むことを目的とする。</td> </tr> </table>	研究名	カメラ画像および複数の観測データを融合した次世代交通計測手法に関する研究開発	概要	道路ネットワーク上の常時観測データを取得可能とする次世代型交通計測システムの構築を目指し、AI 解析、カメラ画像を活用した交通移動体の高精度検知手法、複数の交通データを融合した交通量等計測データ生成・補正手法の開発に取り組むことを目的とする。	<p>東京理科大学 准教授 柳沼 秀樹</p>	<p>交通量観測等の実務でのニーズの把握やシステムへの反映に努めている点は評価されるが、AI による車両検知手法について、精度・適用条件等を明らかにし、実務での活用が可能な成果となるようとりまとめていただきたい。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 最終年度に向けて、実務的に有用な結論に着地できる内容に重点化し、取捨選択して取り組まれない。 テーマ2(AIによる車両検知手法)については、以下を実施していただき、交通量観測等の実務で活用可能な成果となるようとりまとめていただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> AIの改良の効果、即ち、交通量観測精度がどの程度向上しているのかを具体的に数値で示す。 計測結果だけではなく、【研究状況報告書】(P.4)の図4のような、バウンダリボックスや交通量の計測ラインなどを表示したAI解析動画を閲覧する機能を実装する。(計測結果を視覚的に確認でき、システムの信頼性の向上やカメラ設置位置の改善等につながる。ぜひ実現していただきたい。) 計測ラインの自動最適化手法については、15分間値や1時間値の計測中に画角が変化した場合、どのように上り・下りを判断し、集計するのか明らかにする。 開発したAIの特徴(精度、計算速度等)と利用者のニーズを踏まえ、適用範囲(どのような場面で活用可能か)を整理する。 テーマ1(実務者ニーズに基づく交通計測クラウドシステムの設計・実装)については、抽象的な内容にとどまらないよう、テーマ2、テーマ3(交通量データの生成・補正方法)の成果も踏まえて、さらなる具体的な検討を実施していただきたい。 競争の激しい分野であるので、積極的かつ迅速な論文等の発表(特に国際誌)を実施していただきたい。 	4,474	B
研究名	カメラ画像および複数の観測データを融合した次世代交通計測手法に関する研究開発											
概要	道路ネットワーク上の常時観測データを取得可能とする次世代型交通計測システムの構築を目指し、AI 解析、カメラ画像を活用した交通移動体の高精度検知手法、複数の交通データを融合した交通量等計測データ生成・補正手法の開発に取り組むことを目的とする。											
2021-3	3	I	<table border="1"> <tr> <td>研究名</td> <td>高速道路における Proactive 型交通マネジメント方策についての研究開発</td> </tr> <tr> <td>概要</td> <td>本研究は、AI 技術を活用した交通状況ナウキャストをトリガーとし、ゲーミフィケーションによる行動変容提案のデザインアルゴリズムを構築し、チャットボットを通じて走行中に安全に行動変容提案をする Proactive 型交通マネジメント方策を開発するものである。</td> </tr> </table>	研究名	高速道路における Proactive 型交通マネジメント方策についての研究開発	概要	本研究は、AI 技術を活用した交通状況ナウキャストをトリガーとし、ゲーミフィケーションによる行動変容提案のデザインアルゴリズムを構築し、チャットボットを通じて走行中に安全に行動変容提案をする Proactive 型交通マネジメント方策を開発するものである。	<p>岐阜大学 教授 倉内 文孝</p>	<p>研究計画に沿ってシステムが概ね構築される等、順調に進捗している。実証実験による改良等を踏まえ、Proactive 型交通マネジメントの実導入に資する成果がとりまとめられることを期待する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 本研究の成果・アプローチが他の地域等にも容易に展開できるよう、適用場面に応じたゲームの設計方法等の一般化や、開発したツールの公開等について配慮をお願いしたい。 実証実験が実道において実際の道路利用者を対象として実施できなかった場合でも、最終年度の成果がとりまとめられるよう、代替手段等を想定して対応していただきたい。 「ゲームの中で高得点は獲得しているものの実際の運転挙動としては危険である割合が約43%生じる」という結果について、DSによるバイアスと考えるのか、ゲーミフィケーションを実際に導入することの危険性と考えるのか、について整理が必要。前者であればDSで得られる知見の現実性が問われることになり、後者であれば研究成果の実用化に向けた大きな課題であると思われる。 「交通状況ナウキャストモデルをリアルタイムで運用するにはNEXCO西日本のデータサーバからデータを順次入手しなければならない、この機能が実現する用途はたっていない」は、実用化に向けた大きなハードルであると想像される。研究期間内に問題が解決されない可能性もあり、研究期間後も解決に向けて関係者との会合等を重ねるべきと考える。 	1,950	A
研究名	高速道路における Proactive 型交通マネジメント方策についての研究開発											
概要	本研究は、AI 技術を活用した交通状況ナウキャストをトリガーとし、ゲーミフィケーションによる行動変容提案のデザインアルゴリズムを構築し、チャットボットを通じて走行中に安全に行動変容提案をする Proactive 型交通マネジメント方策を開発するものである。											

(R4採択・1年目)

番号	テーマ	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	研究継続の妥当性評価（意見）	特記事項	R4委託額 (万円)	中間評価 (案)*
2022-1	-	IV	研究名	道路整備による走行時間短縮便益等を把握する手法についての技術研究開発	東京大学大学院 教授 加藤 浩徳	実務上の課題をヒアリング等でさらに明らかにし、本省と引き続き連携しつつ研究を進めることにより、現場での事業評価の実務を踏まえた便益把握手法等を開発されることを期待する。	1. 実務者インタビューを着実に実施するとともに、当初計画では2年目に実施予定の貨物交通の検討(現状と今後の変化に関する検討、時間価値の試算)についても研究計画に明確に位置付けた上で着実に実施していただきたい。 2. 道路整備による誘発交通への影響について、過去の道路整備ケースを対象とした統計的因果推論によるインパクト分析を行うことが、どのように「誘発交通等を考慮した交通量推計手法の開発」に繋がるのかを明確にした上で実施していただきたい。 3. 研究成果の学会発表等も積極的に実施されたい。 4. 経費の積算精度が必ずしも高いとは言えず、効果的・効率的な研究遂行・費用削減に努めていただきたい。	5,000	A
		概要	我が国の道路事業を対象に、事業評価手法の改善を目指し、時間価値等の原単位の設定手法および交通量推計の手法について検討し、我が国の事情に見合った新たな事業評価手法の提案を行うことを目的とする。						
2022-2	-	IV	研究名	権利と効率のストック効果に基づく社会的意思決定方法と実用的なストック効果計測手法の開発	神戸大学大学院 教授 小池 淳司	1. 非常に時宜を得た重要な研究課題に意欲的に取り組んでいること、本省・地方整備局と協議し具体的なテーマに絞って分析を行っていることは、評価できる。 2. 最終年度である来年度の研究方法・到達目標について、「特記事項」の指摘を踏まえて具体化し、できるだけ実用的な成果をとりまとめていただきたい	1. 最終年度である来年度の目標に掲げた「権利と効率のストック効果に関する社会的意思決定方法の確立に向けて、短期的、長期的な戦略を明確にする」ため、個別テーマに加えて、研究課題の全体像を体系的に整理していただきたい。その際、例えば、以下について明らかにしていただきたい。 ・「事業の社会的意思決定」と「ストック効果の予測・予定」の関係性。後者の計測結果を示した上で、意思決定するのではないか。 ・「効率のストック効果×予測」における「事業特性別の支払意思額の推計」の位置付け。 ・「権利のストック効果×予測」の枠組み、「医療サービス」の位置付け。医療機関へのアクセス時間の分析における新規性は何か。 2. 他国の事例や実務への活用方法を重視して整理していただきたい。 3. 経費の積算精度が必ずしも高いとは言えず、効果的・効率的な研究遂行・費用削減に努めていただきたい	5,000	B
		概要	権利と効率のストック効果に基づく道路事業の社会的意思決定方法および道路事業が有する多面的な機能の評価のための実用的なストック効果計測手法の開発を行う。						

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

※FS評価：研究継続の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分あると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

R4年度継続課題 中間・FS評価(案)一覧

【ハード分野・中間評価】

(R2採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	研究継続の妥当性評価(意見)	特記事項	R4委託額(万円)	中間評価(案)*
2020-6	-	IV	研究名	走行中の電気自動車に連続的に無線給電を行う道路の実用化システムの開発	大成建設 新藤 竹文	伝送効率の改善や社会実装に向けた整理により、無線給電技術の体系的な実用化システムの構築が期待されるため、現行の通り推進することが妥当であると評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 異物の組合せで構成される舗装の耐久性に関する実証実験および低コスト化手法の検討が望まれる。 次年度の計画で10kW送電・7kW受電の実験計画が示されている。目標とする伝送効率の達成に十分注力いただきたい。 技術的な可能性は理解できるが、社会実装される姿をイメージすることが難しいことから、現場実装を意識して研究を取りまとめられたい。 接着剤を用いる部分を含め、雨水浸透材が弾性層として10年機能することの検討が望まれる。 通常舗装と比較してどの程度のコスト増が見込まれるかの試算も踏まえ、基本仕様の検討が望まれる。 	4,685	A
			概要	本研究では、高効率で汎用性に優れた無線給電を行う道路システムを実現するために、電界結合方式無線給電技術における給電効率や電気自動車への給電制御、舗装の強度や耐久性、修復・更新方法などの実用化技術を開発する。					
2020-7	-	IV	研究名	走行中ワイヤレス給電のコイル埋設についての研究	東京理科大学 准教授 居村 岳広	コイルの電気的特性と舗装としての機械的特性の両立により、今後の実用化に向けた基礎的成果となることが期待されることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 送電効率の向上の理論的根拠、材料や構造の組み合わせの影響の整理が望ましい。 舗装の耐久性に与える影響について、現在進行中の土木研究所および校内での走行試験結果に期待したい。 技術的な可能性は理解できるが、社会実装される姿をイメージすることが難しいことから、現場実装を意識して研究を取りまとめられたい。 コイルの発熱対策、漏洩磁界対策を公道での実証実験に向けた課題として掲げられており、実証実験の実施のために達成すべき水準、又は達成が望ましい水準をあらかじめ示すことが望ましい。 	4,673	A
			概要	走行中充電における道路側コイルの電気的特性と機械的強度向上させた上で、アスファルトへの埋込み技術確立を目的とする。電気的特性(効率・電力など)と機械的特性(耐久性など)を従来コイルと比較し、経年劣化の評価を行い、埋込み深さの最適化、低コストコイル等の可能性を示す。					

(R3採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	研究継続の妥当性評価(意見)	特記事項	R4委託額(万円)	中間評価(案)*
2021-7	4	I	研究名	データ同化をベースとした高耐久フライアッシュコンクリート舗装についての技術研究開発	日本大学 教授 岩城 一郎	高耐久FAコンクリート舗装に関する挙動特性の評価による基礎的理論の構築が順調に行われており、次年度以降の試験施工やデータ同化による定量的評価に向けた素地が整っていることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 膨張材の過小評価とともに、解析において圧縮ひずみの減少量の過小評価もあると考える。解析においてもひずみ変化が、実測と解析で収縮傾向がクロスする現象がみられるので、その評価が望まれる。データ同化手法をどのように解析・開発に応用・利用しているかが理解しにくい。 当初計画より若干遅れているようであるが、次年度のフィールド試験等の計画ができていようであるので着実に進めていただきたい。 フライアッシュだけではなく高炉スラグ微粉末や膨張材などの混和材の舗装適用にまで研究の成果を応用できるため、フライアッシュの優位性を明確にしてこれらを考慮したまとめとしていただきたい。 	5,000	A
			概要	本研究は、設計供用期間100年を満足する舗装の実現を目指し、高度な実験と解析を駆使したデータ同化による性能評価に基づき、フライアッシュを活用した高耐久コンクリート舗装の開発と実装を行うものである。					

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	研究継続の妥当性評価（意見）	特記事項	R4委託額 (万円)	中間評価 (案)*
2022-3	—	IV	<p>研究名 統計的アセットマネジメント手法に基づくバックキャスト型道路政策の深化についての技術研究開発</p> <p>概要 応募者等が開発したアセットマネジメントを高度化させ、アセットマネジメントと 1)劣化属性情報、2)EBPM、3)リスクマネジメントとの融合により、それぞれバックキャスト型道路政策を支援・深化させるための方法論を開発する。</p>	<p>大阪大学 准教授 貝戸 清之</p>	<p>各研究項目について進捗は確認できるものの、最終成果であるマニュアル案の作成を念頭に、研究項目の洗い出しや、具体の適用事例の明確化が望まれる。よって、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 劣化特性(例えば速度)に対応して、補修などのデータ欠損があった場合に生じるモードの違いを解析し、これをデータ欠損の検出に利用するとしたら、そのモード分析の研究内容が重要になると考える。また、再劣化の特性に影響する補修方法や既に劣化している部位の影響(例えば塩害であれば浸透塩分の逆流など)で劣化が促進される様な現象分析についても研究を行い、パターン抽出することが期待される。 劣化予測が実際の現象と概ね整合するかどうかの検証が望まれる。 構造物群を対象にしたアセットマネジメントとしての実装のためのマニュアルの内容を早期に定めて、マニュアルが実用できるかどうかを判断しながら開発を進めていただきたい。 最終成果であるマニュアルの作成から逆算し、具体的な研究内容・研究計画の洗い出しが必要。 	3,100	B
2022-4	—	IV	<p>研究名 ICTと商用車プローブデータを活用したAIによる道路維持管理システム</p> <p>概要 道路点検にスマートフォン、ドライブレコーダー及び商用車プローブデータを活用し、高い品質と維持管理の効率化・高度化を図るとともに、路面劣化メカニズムを過去の点検データや道路台帳、交通量など様々な因子から分析し、AIを活用して次世代型維持管理計画策定手法を開発する。</p>	<p>長崎大学 教授 松田 浩</p>	<p>研究は順調であり、巡視や定期点検における各種データ(記録)を一元化することによる道路維持管理業務の効率化や、各種データとの因果関係整理により道路施策としての説明成功上が期待されることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道路管理者と協働で利活用方法を検討するとともに、自治体管理の道路でも検証を実施いただきたい。 所要の目的を達成するため、ひび割れ率の算定、道路物体検出などについて、その検出精度などのデータとともに、検出精度に影響するスマホやドラレコのカメラ性能などについても、所定の目的を達成するために必要なシステム性能をとりまとめていただきたい。 想定される事例において、システムの構成や各部分の入出力なども項目として具体的に示したうえで、それぞれの精度も明らかにする必要がある。 道路管理者と連携し、データの一元化と可視化がなされた次に、例えば研究目標である巡回記録と交通との因果関係の解析等、活用策の提案が行われ、または道路管理者からのフィードバックがなされることが期待される。 	4,899	A

【ハード分野・FS評価】

(R4採択・FS評価)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	研究継続の妥当性評価（意見）	特記事項	R4委託額（万円）	FS評価（案）※
2022-5	—	FS	<p>研究名 再生可能な水素を併産するバイオマスペースの舗装材に関する技術研究開発</p> <p>概要 石油アスファルトをバイオマス発電副生タールで置き換えることを目指して、当該タールの改質技術を開発し、改質タールから成る舗装材を試作・評価する。併せて、タール改質の副生物を再生可能な水素の製造にリサイクルすることを研究する。</p>	<p>東京都市大学 准教授 高津 淑人</p>	<p>カーボンニュートラルへの貢献が見込まれる画期的かつ社会的意義の高い研究であるが、本格採択に向けた条件である品質や製造コストを踏まえると、実用化に向けて解決すべき課題が多く、FS調査結果からは提案の研究計画で成果が得られると認められるだけの知見は示されていないと判断した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの実験結果を踏まえて、改質ピッチの製造に適した反応条件、混合方法などの実用化可能な組み合わせを明示してほしい。また、材料の調達性やコストなどの実現性についても前提として明示すべきである。 FS成果からカーボンニュートラルへの貢献が難しいことが明らかになったことから、蒸留減圧技術の改善を目指すこととされているが、そのために必要な研究の方向性や、その実現可能性を示す必要がある。 改質ピッチについて、ストアスに近づける手法のみならず、改質ピッチの特性を踏まえたバインダーとしての独自の性能評価法にも着目すべき。バインダーとしてストアスの性状に改質させることに着目することのみならず、混合物として成立させるために、バインダーとして改質ピッチを利用することを優先して考えるべき。 	976	D
2022-6	—	FS	<p>研究名 リサイクル炭素繊維のコンクリート構造物用補強材への応用</p> <p>概要 自動車産業、航空機産業、洋上風力発電事業などで用いられる炭素繊維(CFRP)から取り出されたリサイクル炭素繊維を用い、コンクリート構造物の補修に用いる補強材を開発する。</p>	<p>岐阜大学 教授 國枝 稔</p>	<p>将来的な炭素繊維のリサイクル必要性を想定した社会的意義の高い研究である。本格採択に向けた条件として示された事項を満足していることを示し、またそれを踏まえた研究計画を提示していることから、新規研究として採択することが妥当と評価した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 網状の加工は樹脂によるとの提案であるが、三つ編み状の炭素繊維に対する樹脂利用とは形態が異なることに留意されたい。また、樹脂含浸された炭素繊維の疲労特性やコスト分析も検討されたい。 3年目の ReCF 補強材を適用したコンクリート部材の性能評価において、既存の補修工法との比較検討による評価を明記されると良い。 コンクリート部材の表面あるいは内部に固定して、部材としての補修・補強を目的とすることから、その使用目的と、使用する ReCF の素材特性(種類や状態)に応じて、最終的に製造されるネット状材に確保すべき(あるいは確保できる)性能(強度や剛性)、その品質(ばらつき)などの目標条件を明確にして、ReCF の接合条件や樹脂の種類、含浸方法、ネット製造法などを検討いただきたい。 コンクリートとの付着改善のために機械的な付着を検討されるとあるが、コンクリート部材に対してどのような補修工法(表面貼り付け、かぶりコンクリート内への埋め込み)を想定するかも明確した上で開発を行うのがよい。 新設構造物の補強材も対象とするか、既設構造物の補修材に適用するかなど、適用対象を明確にしていきたい。 	949	A

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

※FS評価：研究継続の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分であると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。